

祭祀場と領くヤマ・カクラ・海川の関係図

- 村人(川北、川南の人々)が、伴人として集まっている。
 - シヨウホイが、祓いの祝詞、大祓いの祝詞を奏上する。
 - 次に伶人、伴人を祓う。
 - 御戸開きを行なう。伶人の太鼓(木下)、笛(前迫)の中で、伶人(飯屋)が、オー オー オーの三声をあげ、シヨウホイが御戸を開ける。
 - シヨウホイが、部落の人々から献上された御酒や供物を供え、祝詞を奏上し、供物を下げる。
 - 14:00 祭典を終了し、直会いをする。
 - 14:46 カンメ(神舞)を開始
 - 演目は、天岩戸と鬼神舞を舞う。
 - 14:57 カンメ終了
 - 15:04 コノサカへ出発(写真23)
 - 行列の順番は、次の通りである。
 - ①シバオコシをした柴の束(コノサカで神々がかかられるシバ二本、ヤマンカンシバがかかられシバ二本、山神の絵姿をかけるシメナワを張るシバ二本、神職のシシ追いシバ一本、鳥越に越える坂の二のシバで神々がかかられるシバ二本の合計九本のシバ。
 - ②タツガンサー ③金幣 ④ヤマンカンシバとシシの肉 ⑤⑥金幣(七本) ⑦⑧オノサオ三本(拜殿入口の柱のオノサオは柱にかかったまま残す) ⑨弓・矢 ⑩シヨウホイ ⑪伶人(木下) ⑫伶人(笛)前迫 ⑬伶人(飯屋)
- の順で行列をなして、隣村の半ヶ石との境であるコノサカの峠を向

けて、伶人の笛の音の響く中を進む。

1524 コノサカに到着

○シヨウホイが、先頭のシバの束を取り、二本を杉の木の根本にX状に交互してたて、二本を伶人にわたす。残りのシバの束をX状にして立てたシバの上に置く。その上にタツガンサー、金幣、ヤマンカンシバ、シシの肉と行列の順に立てかける。

○シヨウホイは、その前にて祓いの祝詞をあげる。(写真24、25、26、27)

ハンゲシヤマヲシキマス ヲクヤマスミ ナカヤマスミ ヤマノ
クチスミヲシキマス サンマンサンゼン サンジユウ サンタイ
ノ オオヤマヌシノカミハ コレノトコロニ アモリマセト モ
ウス

と唱え、これからシシガリハジメを行なうため、半ヶ石山を領く。

この間、伶人はその横の場所で、茅を採り、左ねりのシメ縄を作り、シバを両方にたて、それにシメを張り、山の神の絵を飾る。それがすむと、餅盗人をクサル(繋ぐの意)と称して、餅盗人の絵を広げて、小さく折った木の枝の串を頭、目、鼻、口、耳、手、足、腹の部分に刺していく。また、それらの行なわれている後部の高い所では、伴人たちがホトクイ、茅を用いて猪の形を作り、さらに、椎や樫の枝を立てて、シガキを作り、この中に猪を入れる。

1546 シシガリハジメ(写真28)

○狩衣姿の狩人二人(伶人の前迫、仮屋)が、弓、矢を持ち、シガキの回りを時計まわりに回りながら、「シシが出る」「足跡が今朝のものである」「ニオイが新しい」「これは大きい」「子連れで

ある」とか話し、獲物を確認する所作をする。狩人の一人が他の一人に、「マンガヨカゴツ(シシが獲れるように)拜んでもらうために、ホイドンを頼んで来い。」と言い、シヨウホイを呼んでくる。

○シヨウホイを先頭に、前回と同様に問答をしながらシガキの回りをまわる。

○狩人は、しきりに口笛を吹き、犬(子供)たちを呼ぶ。子供達が出てきて、ゴツゴツと犬の鳴き声をたてながら、シシを追い出す真似をする。回りの伴人たちも、「大きいのが見つかったようであるが。」などと声をかける。

○三回まわったところで、シヨウホイが、次のカリウタを歌う。

サイヘイ サイヘイ オソレウヤマツテモウス ソレ メグリキ
タル ネンゲツネンゴウヲ モウシタテマツレバ シヨウワゴ
ジュウキユウネン ネノトシ サクヒラキ ヒラケル ジツゲツ
ノナラビガ ジユウニカンゲツ オオヨソ ヒノカズ サンビヤ
クロクジュウゴカンニチニ アイアタリソウロウ オナジツキヒ
ハオオキナカニ コンゲツコンニチ キチジツニ ハタヤマスメ
ガミノ カリヅメ ツカハマツラントシテ センビキバカリノイ
ヌハ グヲウ グヲウ トモウス センビキバカリノシシハ ニ
ギユウ ニギユウ トモウス センニンバカリノカリウドハイ
ロウ イロウ トモウス

○カリウドタチハ「トーン」「トーン」と叫んで矢を一本ずつ放ちシシを射る。「獲れた」「獲れた」と言いながら、さらにまた、「トーン」と叫んで、とどめの矢を一本ずつ放ち、矢にシシを刺し、高く

天にかかげながら、「獲れた、獲れた。」「良かシシだ。」などと伴人達と共に喜び合う。犬（子供）たちはしきりに吠える。

15:32 シシノケヤキ（写真29）

○「シシノケヤキ」と言つて、大きな火を焚き、獲れたシシを、火の中に入れて焼く。皆それを取り囲み、「ジユガキケタ」「コエテイルカラ、アブラガノッテイル」などと話しながら、シシが焼けるのを見ている。

15:55 ○鳥越の尾筋へ向かう。前と同じ行列の順で、伶人の吹く笛の音で鳥越へ越へる尾筋（二のシバ）に向かう。

16:00 ヤビラキ（写真30）

○二ノシバに到着し、植林した榎の根本に、シバオコシをしたシバをX状に立て、その上にタツガンサアー、金幣、ヤマンカンシバ、シシの肉と行列の順に立てかける。

○シヨウホイは、この前にて次の唱えをする。

ササハラノ カクラヲシキマス ヤマノカミハ ココノトコロニ
アマクダリマセ トモウス

○シヨウホイは、小刀にてシシの肉を切り開き、縦に三筋、横に適當数の切り目を入れる。伴人たちは、前と同様に「ヨクコエタシシダ。」などと、しきりに誉める。先ず、シヨウホイが、「トーン」と言つて肉を食べ、伴人達が次々に、「トーン」と言いながら食べる。中には、木の葉に包んで家へ持ち帰り、家の人達に食べさせる人もある。残りは、近くの木の枝に掛けておく。

16:30 ○神社に向けて出発。列は、神社を出立するときと同じであるが、

先頭は、既にシバを全部使用したので何も持っていない。

16:33 神社へ到着

○オノサオ、ヤマンカンシバは、それぞれ元の柱のカカリシバに結ぶ。

○金幣は御戸に入れ、御戸を閉める。

○タツガンサアーは、御戸の前に立てかける。

16:38 ○明日の神社への集合時間等を決めて終わる。

一月四日

〔池田〕

○朝、九時頃になると、伴人となる部落の人々が神社に集合する。

9:21 祭典開始

9:31 神社を出発

○行列は、①シバオコシで起こしたシバ ②タツガンサアー、シシの肉 ③④金幣 ⑤⑥オノサオ ⑦シヨウホイ ⑧伶人（木下） ⑨伶人（笛前迫） ⑩伶人（仮屋）

の順で、一のシバ（一番目のシバの意）へ向かつて出発する。伶人前迫氏が奏する笛の音の流れる中を、途中から車に分乗。

9:45 一のシバ到着

○一のシバは、道路より少し高くなった丘で、椎の大木があり、普段ここに入ったたり、木を伐ったりするとサワリ（祟り）があるというところである。

○一行は、この椎の大木の根本に行き、半円形に取りまき腰を下ろす。

○シヨウホイは、先頭のシバのうち二本を取り、X状にそれを椎の根本に立て、タツガンサア、ヤマンカンシバ、シシの肉、さらに金幣、オノサオと立てかけ、次の唱えをする。(写真31、32)

カリヤヤマラシキマス ヤマノカミハ コノトコロニ アマク
ダリマセ トモウス

1032 ○X状に立てたシバは、そのままにして、再び列をなして二のシバ(二番目のシバ)へ向かう。途中は車にて移動する。

1030 二のシバ到着

○段部落の段平治氏が、一行をサカムケ(境迎え)する。段平治氏は、榊柴を二本持って、X状に立てる。

1029 ○シヨウホイは、シバオコシをしたシバを二本抜き取り、段氏が立てた榊柴の上に、X状に重ねて立ててその上に、タツガンサア、ヤマンカンシバ、シシの肉、さらに金幣、オノサオと立てかけ、段平治氏宅から献ぜられた、御酒、甘酒、スナマス(鰯と大根)を供える。

1033 ○段平治氏宅のウツガンを祀る祝詞を奏上する。

カケマクモ カシコキ ハタヤマ スメガミタチノマエニ ヤシ
ロツカサ マエサコフミヤ カシコミカシコミ マラモウサク
ダンヘイジノ イヤヌキラマモリ サキハヘタモウ ウブスナノ
カミノマエニ モウサク コノトコロニ シハシジズマリマス
オオミカミタチノ タカキトオトキ オオミメグミヲ アオギマ
ツリ タガエマツル ウジコスウケイシヤ ダンヘイジ オオマ
エニ マイリツドイ キヨキアカルキタダシキココロヲ フルイ

オコシ サラニ ヨキヤスキタマノフユヨ イタダキマツリ
コノヒトビトニモ カガムリマツラシメムト ミムカリモフカキ
ケフノイクヒノタツヒニ トシゴトノタメシノ オオミマツリ
ツカエマツル ムケミキ クサグサノ モノヲツケ シロニオキ
イタワズ ササゲマツル ミテグラヲ ツケマツリテ ツタエゴ
トヲ エマツルサマヲ タイラケク ヤスラケク キコシメシ
ミタモウワザヲ アナオモシロ アナタノシト ミソナワシマシ
テ ウジコ スウケイシヤ マタ ヨノヒトタチガ カミノミチ
ヲ マコトノミチト イタダキ ボシテ オノオノモ モチワク
ル ツトメノ マニマニ イソシミハゲミテ ヒタスラニ オナ
ジキヨヲツクリ ニシヒガシ ムツミナゴミテ アマネク ヒト
ドモノ サチヲ マシススエムト イタツクサマヲ ヘグシト
モウシタマイ ウミノコノ ヤソツギツギニ イタルマデ イヤ
サカエニ タチサカエ ツカエマツラシメタマエト カシコミカ
シコミ モウスラス

1033 ○段平治氏、前に進み出て、二礼、二拍手、二礼で拝む。

1034 ○直会が始まる。(写真33)

段平治氏が、シヨウホイ、伶人(木下↓前迫↓仮屋の順)と甘酒、御酒を取りかわし、スナマスを差し上げる。子供達には、甘酒とスナマスを食べさせる。

1035 ○シバオコシをしたシバを、X状にしたものはそのままにして、三

1035 三のシバに到着

○二三のシバは、大久保部落を下に見下ろす造林地にある。松の小木が立っている。

○シヨウホイは、松の根本に進み、シバオコシをしたシバをX状に立て、その上にタツガンサア、ヤマンカンシバ、金幣、オノサオと順々に立てかける。

○シヨウホイは、さらに次の唱えをする。

イワモトカタラヲシキマス ヤミノカミハ ココノトコロニ ア
マクダリマセ トモウス

11:20 ○X状にしたシバオコシのシバをそのままにして、高尾に向かって出発。

11:30 高尾神社に到着

○神社の後の、森の中に進み、木の根本に、シバオコシをしたシバをX状に立て、その上にタツガンサア、ヤマンカンシバ、シシの肉、金幣、オノサオと順々に立てかける。昔は、今の高尾神社の社の後、タブの大木の根本で行なったという。

○シヨウホイは、さらに次の唱えをする。

ウミカワヲシキマス ジュオウノカミハ ココノトコロニ アマ
クダリマセ トモウス

11:35 ○高尾神社の広場で、大きな火を焚いて、子供達は家から戦ってきた餅を焼いて、昼食がわりに食べる。

○シヨウホイは、前日の二のシバで行なったと同様に、小刀でシシの肉を断ち割る。

○シヨウホイは、「トーン」と言って食べ、次に伶人、伴人、子供達の順に、同様にして食べる（写真34）。残りは、近くの木の枝に

下げておく。

13:12 ○X状に立てたシバは、そのままにして、高尾を出発し、旗山神社への帰途につく。途中は自動車。

13:30 旗山神社に到着

○伶人（木下、前迫）は、行列より一足先に拝殿に戻り、太鼓と笛を奏する。その中で、ヤマンカンシバは元の柱に結わえ、金幣、オノサオは御戸の中に収め、タツガンサアは御戸の前に立てかけておく。

13:42 ○神社での祭りが終わる。一行は、神社脇のシヨウホイの家へ移動する。

14:00 タネマキハジメ

○シヨウホイの歌い出しで、次の歌を、シヨウホイと伶人たちとで合唱する。

アラタマル トシノハジメノ カドマツハ キミニ チトセハユ
ズリハノマツ アラタマル トシノハジメニ ハツマイリ ヨロコ
ビアレゾ ツギヤミヤビト アラタマル トシノハジメニ フデト
リテ ヨロズノタカラ ワレゾカキゾム ハルクレバ イデニサザ
ナミ タチワタル ナワシロミズハ オノガヒキビキ ハルクレバ
コノメモメダツ タヅモタツ ヤマンメダチハ タカナルモノウ
グイスハ マダコノウチニ オルゾカヤ ハルハキタレド オトズ
レモナシ アメフリテ サンジユウサンテンナア サワグトモ
ワガマクタネハ ヨモヤサワナシ カゼフキテ サンジユウサンテ
ンナア サワグトモ ワガマクタネハ ヨモヤサワナシ
○合唱が終わると、シヨウホイは、次の唱えをなして、「トンピー」

の聲に合わせて種子（先の立神の種子と同じ白米）を三回播く。

フクノタネマク トンビー トンビー トンビー

さらに、シヨウホイは、次の唱えをなして鳥を追う。

ホー ホー ホンガラホー ワシノ トーイ トーイ ヒエゲク

ヨッカ ツンネブレ ホー ホー ホンガラホー

最後に、シヨウホイの歌い出しで、次の歌を、シヨウホイと伶人たちとで合唱する。

サンダノナエハ フタバ サイヨー サイヨーナアー フタバニ

ナレバ キミモ サカエマシマス アノナエオイセトナ コノナ

エオイセトナ サンダノナエハ ミツバ サイヨー サイヨー

ナアー ミツバニナレバ キミモ サカエマシマス アノナエオ

イセトナ コノナエオイセトナ サイヨー ナエモトリオサヤ

ムコモミテクレ ワレモミテクルナリ

1435 ○タネマキ終了し、直会が始まる。

1436 ○お膳が出る。ズシ、スイモノ、スナマスが出る。ズシは、大根、

人参、里芋、鶏肉、椎茸、オヤシ、ネギと白米とを一緒に炊いたものである。スナマスは、細くおろした大根、人参を酢で和えたものに、サバの刺身が添えられたものである。スイモノは、鶏肉、椎茸、オヤシ、カマボコ、ネギが入ったものである。これらを食べながら大人は焼酎を飲み合う。子供達は、ズシを食べ終わったら家へ帰る。

一月二十日

〔安水〕

1400 ○安水部落では、一月二日の日に作って床の間に飾られていたハナ

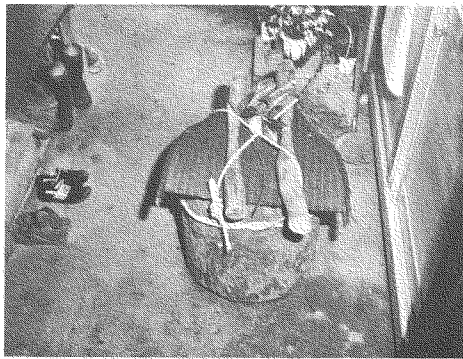
を、安水茂徳氏が全戸を回わり、「タツガンサアーノ、ゴコクホウジョウヲ モツテ マイリマシタ。」と言って配ってまわる。各家々では床の間や先祖棚に供えておく。

〔池田〕

1401 ○旗山神社では、シヨウホイが、前年の十月十日のホゼに奉納した甘酒をおろす。さらに、正月四日以後、そのままになっていたタツガンサアー、ヤマンカンシバ、カカリシバをそれぞれおろして束ね、神社の前の大桶の根本の洞の中に、葉を裏返しにして伏せる。このとき、各祭場にX状に立てたままになっているシバも、伏せられることになるという。これで祭りのすべてが終わる。

《写真資料》

○写真説明の後の○の数字は撮影年を示す。



1 寝かした白⁵⁹



2 デフッデコン (右) とオバンザオ (左)⁵⁹



7 子供たちのタウチ⁵⁸



3 シバフセ⁵⁹



8 立神でのタネマキハジメ⁵⁹



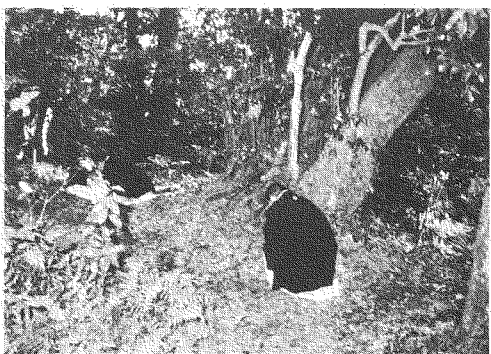
4 クシオコシ⁵⁸



9 タッグンサーのシバを先頭に安水へ向う⁵⁸



5 立 神⁵⁸



10 安水のウツガンヤマにかかるタッグンサーのシバ⁵⁸



6 タッグンサーのシバを作る⁵⁸



15 白井のハリオコシ[㊟]



11 安水のタネマキハジメ (ウタハジメ)[㊟]



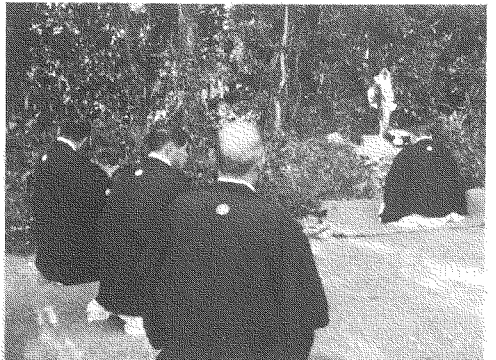
16 クワオコシ[㊟]



12 安水のハリオコシ[㊟]



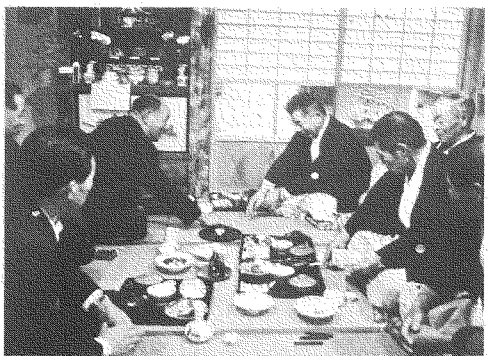
17 旗山神社へ向うオトのシ[㊟]



13 白井の木戸口にかかるダッガンサアのシバ[㊟]



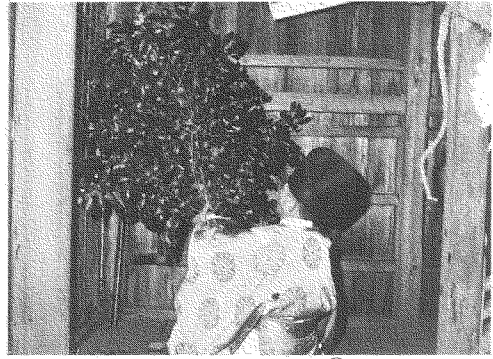
18 若水汲み[㊟]



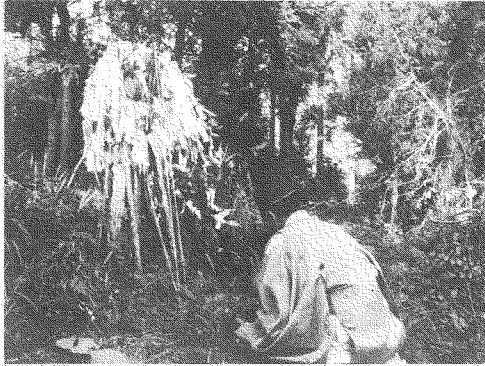
14 ショウホイと亭主のナンコハジメ[㊟]



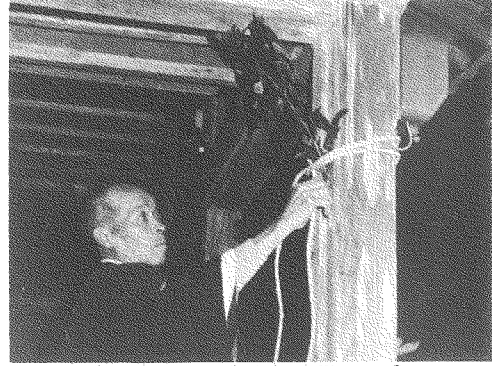
23 コノサカへ向う一行⁵⁹



19 シバオコシ⁵⁹



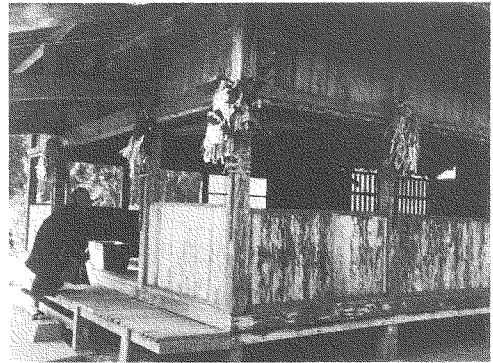
24 半ヶ石ヤマを領く⁵⁸



20 カカリシバを柱に掛ける⁵⁸



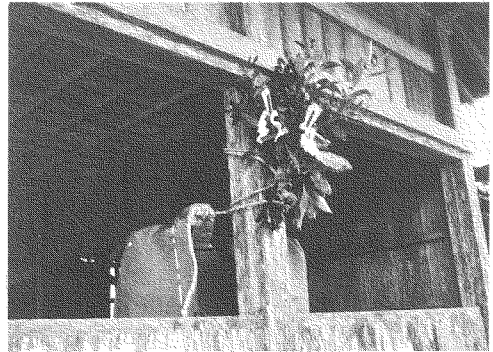
25 姿絵の山の神とシバ⁵⁴



21 カカリシバの上に掛けられたオノサオ⁵⁸



26 餅盗人を刺す⁵⁸



22 ヤマカンシバ⁵⁸



31 椎の木の根本に×状に立てられたシバ[㊦]



27 四匹のシシ[㊦]



32 一のシバで仮屋ヤマを鎮く[㊦]



28 シシを射る[㊦]



33 二のシバでの段家のサカムケ[㊦]



29 獲れたシシを焼く[㊦]



34 シシの肉を食べる[㊦]



30 矢開きでシシの肉を切る[㊦]